

2019年11月1日

調査「クルーズ船の寄港状況と地域振興」

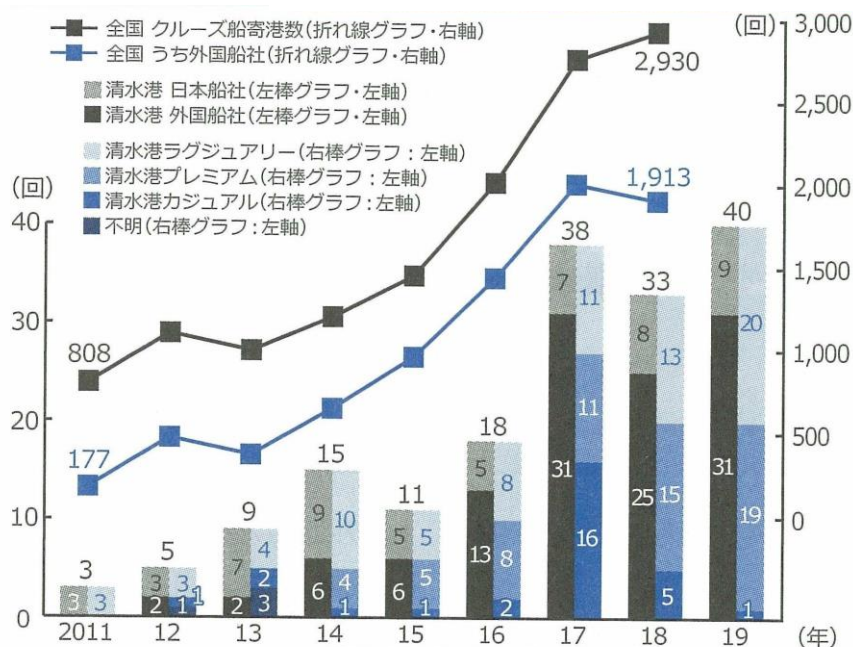
～寄港数は大幅増加、来港者は欧米人が過半～

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、県内でクルーズ船の寄港数が最も多い清水港に焦点を当て、クルーズ船の寄港状況等を調査しましたので、ご案内します。

(1) クルーズ船の寄港数の推移

- ・清水港へのクルーズ船の寄港数は、3回（2011年）から40回（2019年）へと大幅に増加する見込み。そのうち31回は外国船社となっている。

図表 全国および清水港のクルーズ船の寄港数の推移

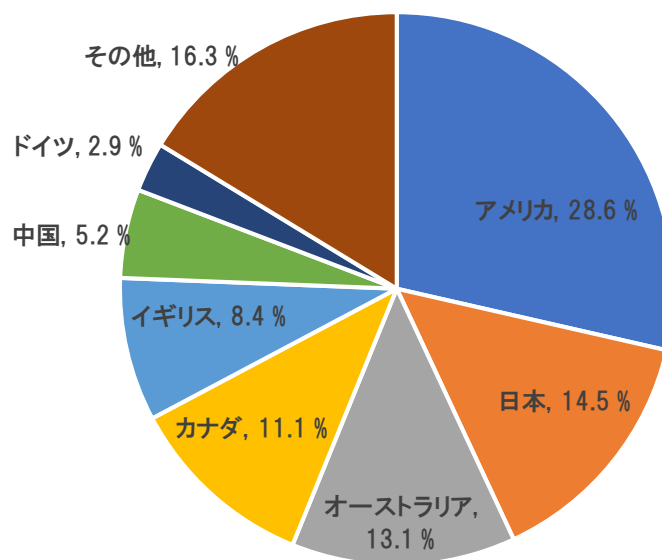


注) 2019年は清水港の9月末時点での来港予定、全国はデータなし
 資料：国土交通省、清水港客船誘致委員会(事務局 静岡市)
 「クルーズ客船データブック 2018・2019」をもとに当所にて分類・作成

(2) 清水港への来港者の国籍 (2018年)

- 2018年に清水港に来港したクルーズ船の乗客約4万9,000人の国籍は、アメリカが28.6%と最も多く、次いで、日本が14.5%、オーストラリアが13.1%と、欧米人が過半を占め、日本人も数多く来港している。
- 一方、中国人は5.2%と少なく、今後の増加が期待される。

図表 清水港クルーズ船 乗客の国籍別割合 (2018年)



資料：清水港客船誘致委員会（事務局 静岡市）

(3) クルーズ船の分類

- ・クルーズ船は価格帯やサービス内容などにより、「ラグジュアリー」「プレミアム」「カジュアル」の3クラスに分類される。
- ・2019年のクラス別の清水港の寄港数（見込み）は、ラグジュアリー20回、プレミアム19回、カジュアル1回と、ラグジュアリーとプレミアムがほとんどを占め※、経済的に比較的余裕のある層が来港していると推察される。

※「クルーズ客船データブック 2018・2019」をもとに当所にて分類

図表 クルーズ船の分類

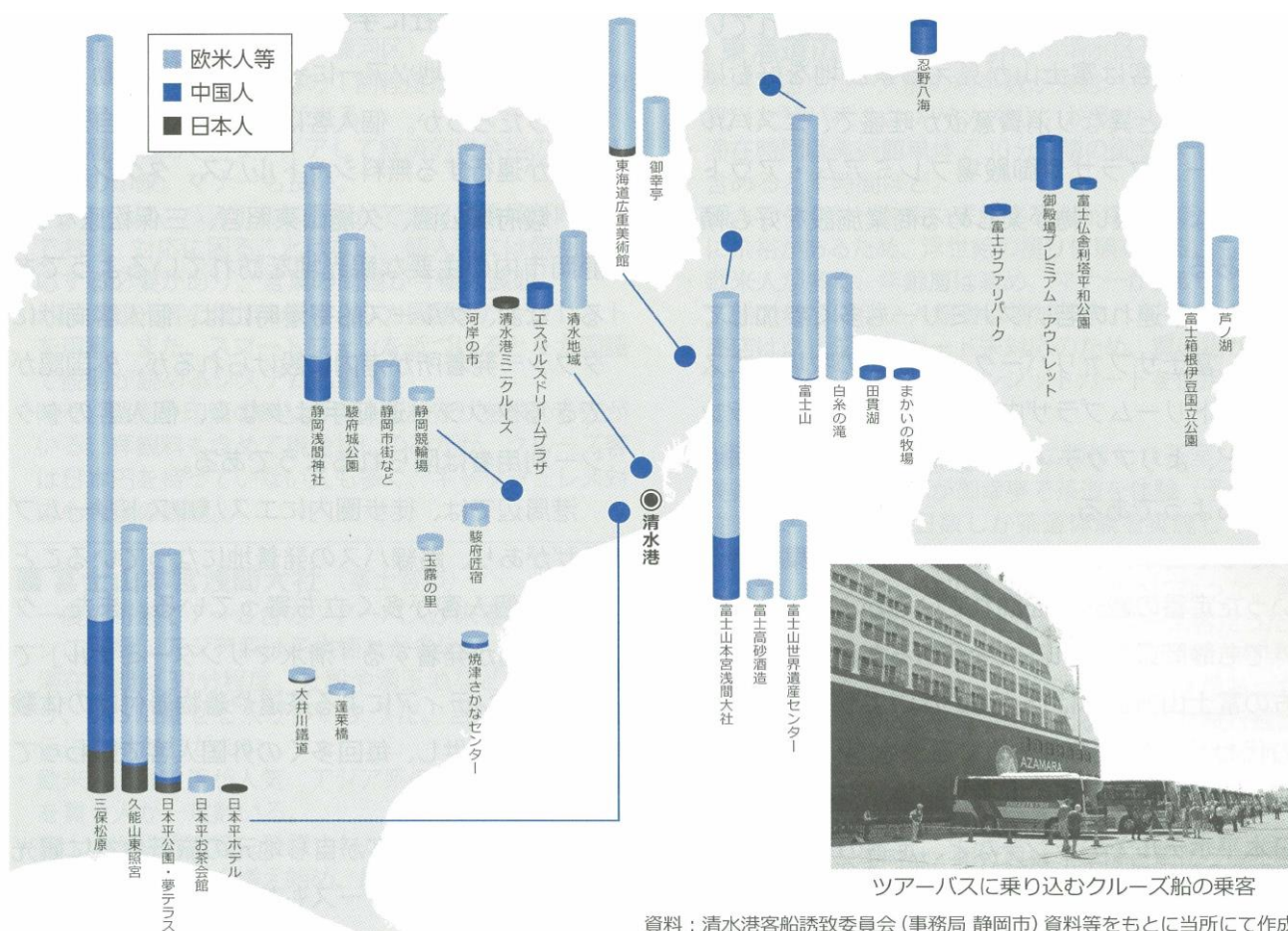
ラグジュアリー	プレミアム	カジュアル
10泊以上のクルーズ中心	7泊以上のクルーズ中心	3～7泊のクルーズ中心
1泊：\$400～	1泊：\$200～	1泊：\$70～
50代以上	30代以上	20代以上
リタイア、アニバーサリー	熟年以上、リタイアしたカップル、友人、ハネムーン	現役～熟年、友人、ファミリー

資料：クルーズ教本（平成30年版）（JOPA）より国土交通省港湾局作成

(4) 清水港クルーズ船の寄港地ツアーの主な訪問先

- ・クルーズ客が寄港地ツアーで多く訪れているのは、富士山本宮浅間大社や富士山二合目などの富士山周辺地域、三保松原や久能山東照宮など日本平周辺、そして静岡市中心部の静岡浅間神社や駿府城公園となっている。
- ・国別では、欧米人等は、神社仏閣や美術館、富士山周辺など日本文化を体験できる観光地が多い。中国人は、定番の観光地のほか、ショッピングなども楽しんでいる。一方、日本人は、定番の観光地に加え、より深掘りした体験ツアーなどに参加している。

図表 清水港クルーズ船の「寄港地ツアーバス」の主要な訪問先



※本件の詳細な調査内容は、「SERI Monthly11月号」に掲載しています

本件のお問い合わせ先 須藤、岩間